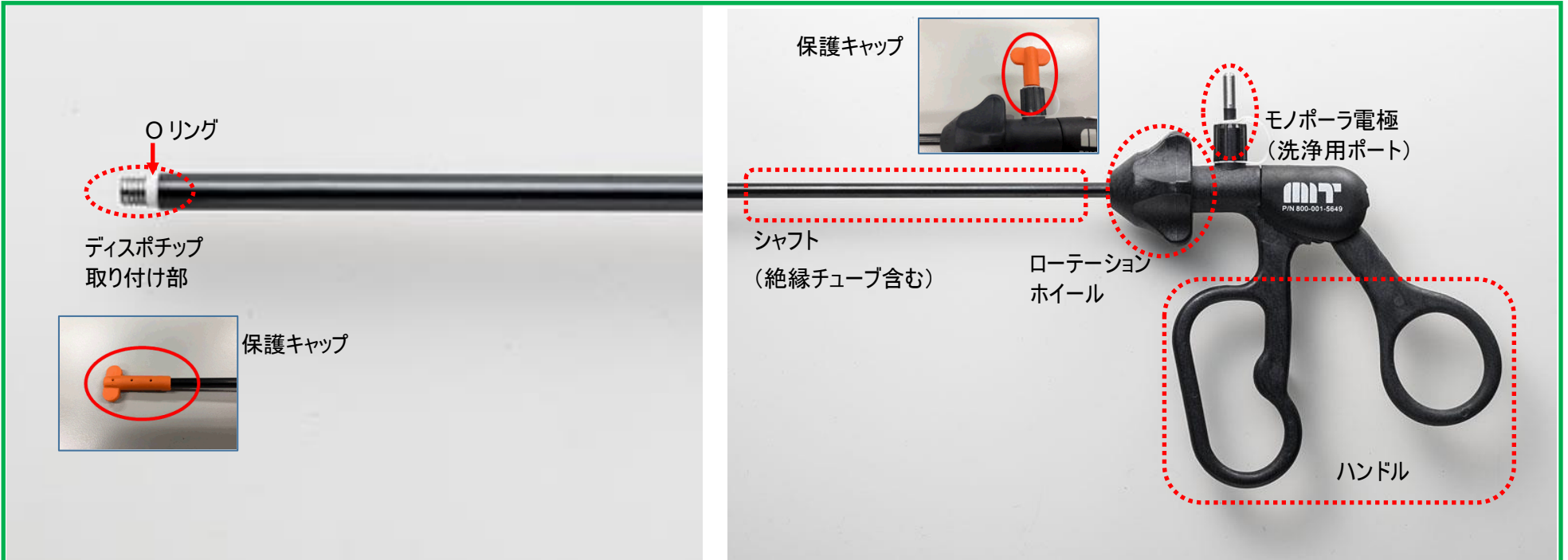


※使用前に必ず添付文書をご熟読ください。

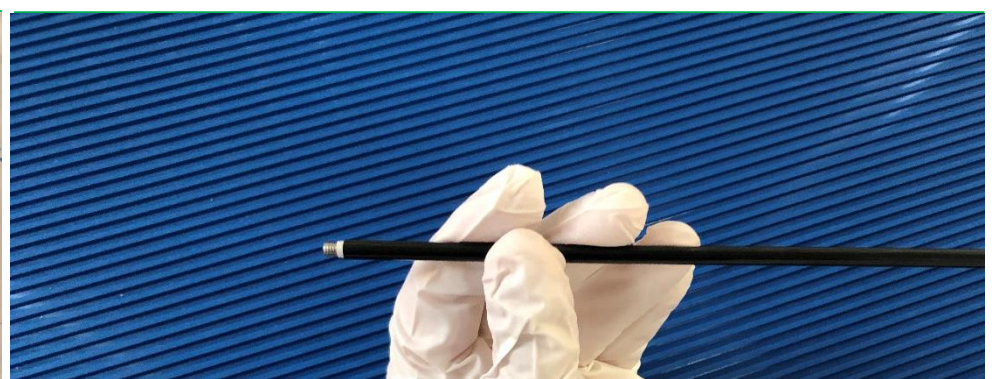
1. MIT アームハンドピース 部位説明



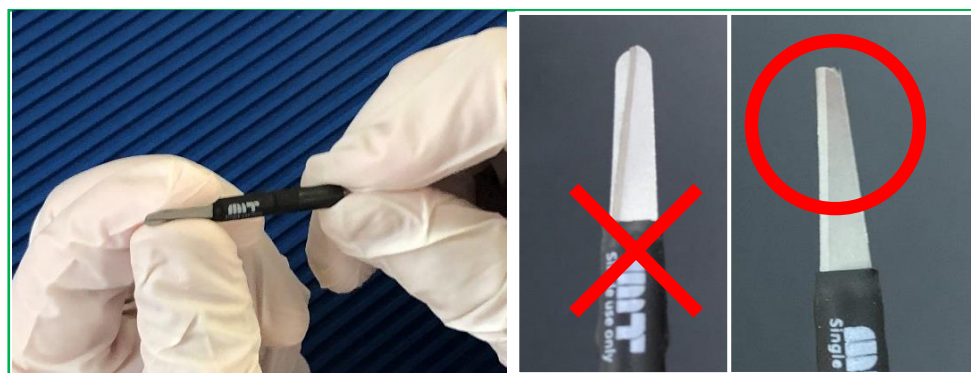
2. 組立方法



①使用前に必ずハンドピースが洗浄及び滅菌されていることを確認してください。初回使用の際にはハンドピースの「ディスポチップ取り付け部」「モノポーラ電極」に装着されている保護キャップを取り外してから、術前の洗浄・滅菌を行なってください。保護キャップは取り外した後、廃棄してください。



② ディスポチップを取り付ける前に、ハンドピースのシャフト先端部に O リングが確実に取り付けられていることを確認してください。  
▲O リングがない、もしくは損傷した状態で使用すると、ディスポチップのガタつき及び開閉不良、絶縁性の低下による感電等を起こす可能性があります。



③ディスポチップの種類を手技に応じて選択し、保護キャップを外します。ディスポチップのブレードを X 状になるまで完全に手で押し込んでください。  
▲ブレードが完全に閉じていない状態でハンドピースに装着すると、ディスポチップのガタつき及び開閉不良等を起こす可能性があります。



④ハンドピースのシャフト先端部にディスポチップを取り付けます。片方の手でディスポチップを保持します。



⑤もう片方の手で、ハンドピースのハンドルが開かないよう保持します。



⑥ディスポチップをハンドピースのシャフト先端部に挿入し、ハンドルを閉めた状態にしたまま、ローテーションホイールを時計方向に回転させて装着します。

オートクレーブ滅菌の一例

種類	温度	時間
プレバキューム式	132°C	12分
	135°C	8分

※使用前に必ず添付文書をご熟読ください。

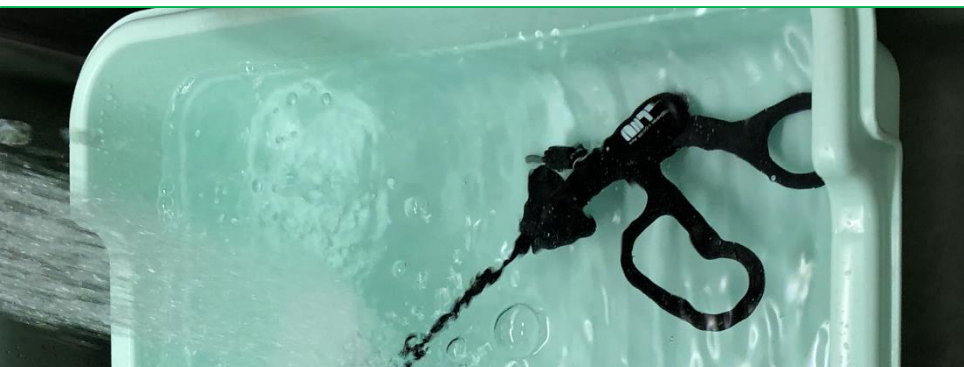
### 3. 使用後の洗浄・滅菌方法



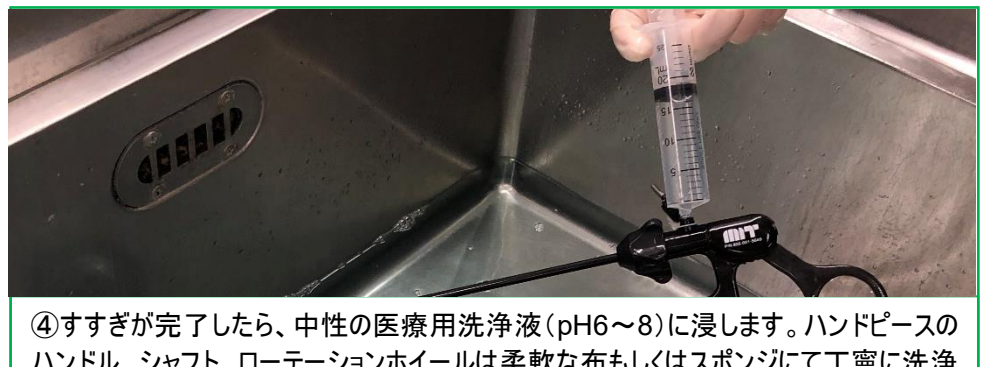
①手術に使用した後、ハンドピースからディスポチップを取り外します。次に乾燥を防ぐため、すぐに蒸留水の入ったトレイ、洗面器もしくは適切な容器に浸します。また、トレイなどが用意できない場合は蒸留水を浸したタオルでくるみ、乾燥を防いでください。



②ハンドピースを医療用酵素系溶液 (pH6~8) に浸し、洗浄及び組織片の除去が行いやすい状態にしてください。この時、洗浄用ポートを外してシャフト内まで医療用酵素系溶液 (pH6~8) が行き渡るようにしておきます。



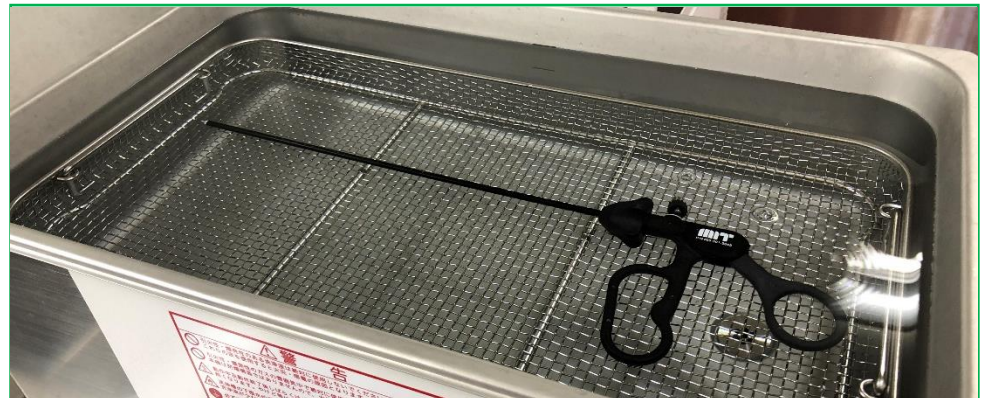
③ハンドピースを医療用酵素系溶液 (pH6~8) から取り出し、蒸留水ですすぎます。シャフト内のすすぎは蒸留水で満たした 60mL タイプのシリンジを洗浄用ポートに接続して、最低 3 回、血液、組織片などの汚れが確認できなくなるまでフラッシングを行ってください。



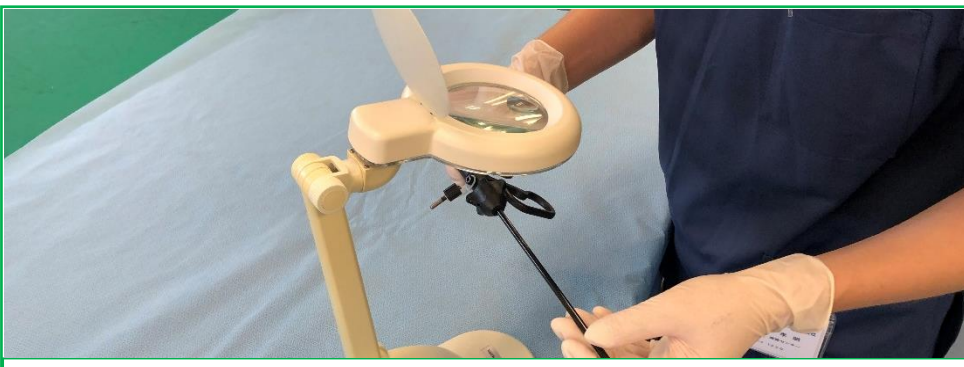
④すすぎが完了したら、中性の医療用洗浄液 (pH6~8) に浸します。ハンドピースのハンドル、シャフト、ローテーションホイールは柔軟な布もしくはスポンジにて丁寧に洗浄してください。また、ハンドピースの末端は損傷しないように軟性ブラシを使用して洗浄します。シャフト内の洗浄は中性の医療用洗浄液 (pH6~8) で満たしたシリンジを洗浄用ポートに接続してフラッシングを行ってください。



⑤洗浄が終了した後、ハンドピースを蒸留水に浸し、清潔な柔らかいタオルを用いて拭き取ります。シャフト内のすすぎは蒸留水で満たしたシリンジを洗浄用ポートに接続してフラッシングを行ってください。



⑥超音波洗浄機を用い 10 分間の処置を行います。この時、超音波洗浄機のバスケットもしくはトレイに製品が置かれていることを確認してください。



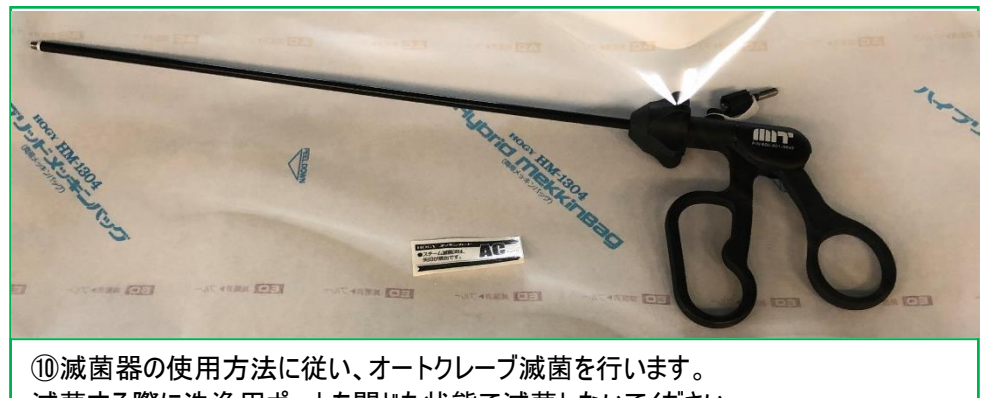
⑦洗浄後は拡大鏡を使用して、絶縁チューブに傷や亀裂等の異常がないこと及び確実な洗浄が施されていることを確認してください。  
 ▲絶縁チューブに傷や亀裂等の異常があった場合、絶縁性の低下による感電等を起こす可能性があります。  
 ▲溶液が残っていた場合、酸化や腐食を引き起こし、ハンドピースの性能、機能、耐久性に影響を及ぼす恐れがあります。



⑧ハンドピースとディスポチップの接合部及び可動部分の全ての動きを維持するため、水溶性潤滑剤を使用します。  
 ▲油性基材の潤滑剤はオートクレーブ滅菌時の蒸気が浸透しないため、必ず水溶性の潤滑剤を使用してください。



⑨ハンドピースを包装して保管する前に、完全に乾燥させておきます。



⑩滅菌器の使用方法に従い、オートクレーブ滅菌を行います。滅菌する際に洗浄用ポートを閉じた状態で滅菌しないでください。  
 ▲シャフト部内腔の滅菌が不良となる場合があります。